

ほけんだより

平成27年1月 南丹市立美山中学校 保健室 3年生特別号

きむら診療所 助産師 木村和子先生のお話を聞いて…

おとなとは？いのちとは？ そして、自分らしい生き方とは？

1月15日（木）に、八木町のきむら診療所助産師・木村和子先生の性に関する講演を聴きました。木村先生のお話を聴いて「いのち」や「自分の生き方」について考えるよい機会になったのではないのでしょうか。ぜひ、友だちの感想を読んでみてくださいね。



～男子の感想～

僕は、間違った理解をした大人にならないために、思ったことはすぐ行動するような大人ではなく、自分でしっかり考え、何をすれば次はこうなると、こういった可能性があるといったことを常に考えて、自分の将来、相手の将来を考えて悪くしてしまうようなことをしない大人になれるようにしよう

世界には小学生くらいから結婚を強いられ、子どもを産まされる。とても悲しい気分になりました。冗談半分で性行為をしようということは、相手の人生もしくは自分の人生に関わることなので絶対に気軽にそういった行動をとらないようにします。

木村先生から聞いたことは、普段僕があまり考えていないようなことでした。話の中には、僕より年が下の学年の人が妊娠したという話とか、リベンジポルノということについて聞きました。中学2年生で妊娠した子の映像を見た時は、ただ驚きました。信じられなかったです。

スライドに表示された「性交＝生殖」というワードも心に響きました。性交とは当事者同士が快感を得るために行うことでは本来なく、「命」という言葉では、言い表すことができない程、重くてかけがえのない存在を宿らせるということなのだと思います。

大人とは、自分で責任のとれる人のことだと思います。これから大人にどんどん近づいているけど、焦らずにゆっくりと歩んで行きたいと思います。

たくさん聴いた中で、特に今後の生き方の中で、とてもよかったのは「命とは…」というところです。命は人間にとって必要であるもの、生きていく中で大切なもの、自分自身の中にあるものなどいろいろものがあつたけど、命は皆一人ひとりにとってとても大切なんだと思いました。

～女子の感想～

お話を聞いて、「命をつくる」ということは、自分だけの問題でも、自分と相手だけの問題でもなく、自分の周りの人たちや、自分の周りの環境とも深く関わっているのだと分かりました。そういった決して簡単ではない問題を、一時の感情やちょっとした興味で、深く考えずに起こしてはいけないと思いました。

私は、断ったら相手がすごく優しくかたとしても変わってしまいそうで怖いし、嫌われそうに思っていました。けど、木村先生のお話を聞いて、そんなことはないし、女性は断ることが大切と知りました。もし、そういうことになったらしっかり断ろうと心に決めました。

今日の話聞いて、知らないことも多くあったので、学べてよかったと思うし、これからの生き方についても学べてよかったです。世界中の中で、たくさんの人々が早くに結婚させられ、子どもを産むということが多くあるので、そんな人たちがもっと自由に人を選んで、結婚していけるような環境になるといいなと思います。

女子の気持ち・男子の気持ちは、お互い分からない部分が多いということを見て知った。女子と男子の恋愛感情には違いがあるけれど、お互いの命の重さを認識し、しなければならないことと、してはいけないことの判断を正確にするべきだと思った。

私が心に残った言葉は、「体の重さは違っても、命の重さ平等」という言葉です。命は生きている人や動物は必ずあって、みんな平等じゃないというのはおかしいと思うし、ちょっと他の人と違うことがあったら差別するというのは考え方がおかしいと思います。

女子にも男子にも、今そして今後に深く関わりのある話で、最終的に体を管理しているのは自分だから、自分の意思で良いことは良い、ダメなことはダメだと声に出して伝えるようにしなきゃダメなんだということがすごく分かりました。

「大人とは」と考えた時、責任を持てる人やしっかり働いている人などがあつたけれど、1番大切なのは「人のことを考えられる人」だと思った。男と女は思っていることや考えていることが違うけど、差別みたくないものは嫌だなと思った。



私がみなさんに大切にしてほしいのは、「今、そこにある自分の命」です。自分自身のことを大切にしてほしいと思っています。誰もが、たくさんの人々から命のバトンを受け継ぎ、今を生きているのです。そして、新しい命の全てが、祝福され、大切にされる世の中になることを願っています。

(保健室より)